

年頭所感 置き薬協会 足高薬品(株)が新潟県南魚沼市と 市民の健康づくり推進の相互連携協力協定を締結

(一社)日本置き薬協会

新年明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。JACDSならびに記者会の皆様へは、配置薬（置き薬）業界の動向発表の機会をお与え頂き感謝申し上げます。

10月28日に、新潟県南魚沼市（林茂男市長）と足高薬品(株)（営業本部南魚沼市、足高有祐社長）は、市民の健康づくりの推進等における相互の連携協力に関して協定を締結した。

協定書によれば、目的として、第1条 本協定は、南魚沼市と足高薬品(株)が相互連携と協働により市民の健康づくりを推進することにより、市民の安全・安心な暮らしを確保し、もって地域社会の活性化に資することを目的とする、としている。また連携事項について、第2条 南魚沼市及び足高薬品(株)は、目的を達成するため、次に掲げる事項について連携するとし、

- (1)セルフメディケーションの強化に関すること
- (2)健康情報の発信に関すること
- (3)高齢者・児童等の見守りに関すること
- (4)災害対策に関すること
- (5)その他前条の目的を達成するために必要と認める事業、と記されている。

今年6月に同業の(株)富士薬品が同様の協定を締結しており、業界では初の事と注目されたが、同市は配置販売業二社と締結したことになる。(株)富士薬品は同市内の得意先軒数は3,200軒で隣接の十日町市（営業所）からの訪問、足高薬品(株)は得意先5,200軒で南魚沼市中心部の六日町に本社を置く。同市の世帯数は令和3年度末で20,125世帯とされ、他の配置薬業者の軒数と併せれば、同市の約三分の一の世帯に置き薬、配置薬が置かれていると推測できる。地域医療の担い手として、医療機関や薬局、そしてドラッグストアの存在は大きいものの、全世帯数の約三分の一にあるとなれば、見過ごせない存在である。定期的に訪問し対面（リアル）で生活者、消費者に医薬品等や情報を提供出来る配置販売（置き薬）業は、それらを補完できる

南魚沼市のホームページ（11月1日更新）に本件が掲載されており転載する。



締結式には、林市長、足高薬品株式会社代表取締役社長が出席し、協定書への署名が行われました。締結式で林市長は、「足高薬品さんは長い歴史を持つ、地域に根差した会社だと思っています。足高薬品さんに市民が抱いている信頼感をお借りしながら、医療福祉の施策を進めさせていただけることを大変うれしく思います」と語りました。

足高代表取締役社長は、「当社にとって全国初の協定締結となります。南魚沼市のために貢献させていただき、しっかり頑張っていきますので、よろしくお願いいたします」と語りました。

同様な取り組みが全国各地に波及し、業界活性化に繋がる事を期待するとこだ。なお同社は中越地震の際に同市へ4tトラック一台分、十日町市及び堀之内町の知的障害者施設にも4tトラック二台分のペットボトル飲料水を寄付。また能登沖地震に際しては、和倉温泉の加賀屋様や柏崎の避難施設へ入浴用湯舟付車両「裕次郎号」を届けて、多くの被災者に喜ばれる等、慈善奉仕事業を繰り返している。